

	環境がわかってそれに 応じてあそびができる。	その場に応じて あそびの事が できる。	あそびないで しばらくだまって いる。その後太 わおになつてしまう。	あそびない。 教師にいわれれば あそびがすぐ大 さわぎになつてしま
	あそびという言葉を でる。	おもしろいように 自分たちであそ びでる。	あそびしない。 あそびするのはい にや。	あそびするのはい にや。
	我慢する	大体できる その強さにあ たりがある。	きつと我慢 する人はきつと まもっているが、 しなやかな、すぐ いけななだとい われてしまう。	我慢我慢 しない。 まっすぐもま なく、 いざばでるが 身につけていない
	自分のやうとした事に しよけんめいになる。	たとえ、小さい事 でもしよけん めいになる。	やるがあまり しよけんめい なく、結果にし たがってやってい くの態度。	しよけんめい やる。長つそ なく、他にい 事があればすぐ うつてしまう。
表現 活動 (1)	いろいろな工夫をする	工夫してやる 自分からいろいろ やる。	いければ やれる。 その人の力の範囲 でできない	いろいろな工夫するが ちよと失敗した りするとすぐやめる。 考えは大へんよい。
制作 活動	いろいろな材料を つかえる	材料も工夫し つかえる。 自分から必要な ものをとる。	与えられたもの きつたものしか 使えない	いろいろな使用で きる。それと充分に 使えきれない
	自分から考えてみる	大へんいろいろ と考える事に 示すのでなく、 自分からほしめる	指示があれば やる。 指示がないと 自分からほしめる	指示なしでも やりだすが長つ きがなく、 ほつてしまう事 がある。
	おびに必要なもの を考えられ又つくる。	自分たちのおび に必要なものを どんどんつくり おびにたのしみ げにする。	おびにほしめる。 いめれた時のみ する。	つくうとする意 欲は旺盛。 やりおし自分 でできないとす ていしょう。
	技術的な面とみ た場合	その人の個性が 豊かであるが しよけんめい という面が大へ んではない	大へん個性が ある。 おびにほしめる	個人個人大へ ん個性が あるが、 自分からほし められている
表現 活動 (2)	リズム感	個人個人 大へんよい。	形にはめられた よきはある。 よくない人は リズム感 としない。	リズム感ある人は リズム感 としない。 人との差大い。
音楽 リズム	自ら表現する。	自分表現は ありあけ 表現力は下手。	形からみた 表現力は 大へん よい。	とても好きで 人とは、 やうな人は 全然やらない
	材料をたくさん つかう。	あまりしない。	大へんたくさん つかう。	あまりしない。
	音楽・リズムに 対して興味がある。	大へん興味 があるが、それ と表現力 は関係ない。	興味がなく やうな人は 表現力 と興味 と関係ない。	興味は大へん あるが、 自分から ほしめる のとは、 人との 差大い。 は、 関係ない。
	歌をうたう	歌多くうた う。おもしろ い。うたう うたう。	歌多くうた う。うたう うたう。 おもしろ い。うたう うたう。	歌多くうた う。うたう うたう。 おもしろ い。うたう うたう。
	楽器を扱う	あそびの中 で、あそび がマスター してしま	あそびの中 で、あそび がマスター してしま	あそびの中 で、あそび がマスター してしま

表現 活動 (3)	劇などいろいろな 形で表現できる。	いろいろな 形で表現 できる。	きめられた言葉 と動作は あそび があまり ない。	自分たちで考 えることは あそび があまり ない。
	せりふも考 えて 大い でる。	いろいろな 形で表現 できる。 大い でる。	いざ人の あそび は、 あそび があまり ない。	いろいろな 形で表現 できる。 あそび があまり ない。
事物 に 対 し て の 状 態 に 応 じ て 自 分 の と る べ き 行 動 が わ か る。	わかる よく理 解できる	あそび があまり ない。	あそび があまり ない。	あそび があまり ない。
人として、やさしい、おもひやり がわい、ゆるみ、などなど 精神的なものが育つ。	この面は大へ ん育つ。	或面は育つが 或面は育つ があまり ない。	人によって あそび があまり ない。	人によって あそび があまり ない。
自発的な行動がとれるか	大へんよくとれる	とれる があまり ない。	大へんよくとれる が、正しい行 動があまり ない。	大へんよくとれる が、正しい行 動があまり ない。

O考察(2)

以上のような項目では徹底したものとはいえないが、或、少ない角度からみても5才児になるとその差は大きい。

① 教師というものが大へん大きな位置を占める。

② 目標①③は表面は同じ形態でも、教師の生活の中での指導によって5才児になると大へんな差ができる。

③ 自発性は幼児は大いに持っておりそれを発揮する。が、それと上手に指導し誘導しないと幼児の力にならず却って邪魔をしてしまう。

④ 目標②のように教師の指示が強ければ、幼児本来持っている自発性も減るといってしまふ。

以上、教師が幼児と共に体と動かし一つ一つの幼児の行動もおろそかにせず、その人個人なりの能力や性格に応じて指導する事こそそのぞましく、

人間一生の底力になる自発性と失わせないように指導せねばならない事を、2年後乃至3年後の5才児の上にもみえているので教師としても、反省しなければならぬと痛感した。